



臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報 は 厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1

電話：03-3541-5151

担当者の所属・氏名 聖路加国際病院 泌尿器科 新保 正貴

鼠径ヘルニアメッシュ手術がロボット支援前立腺手術に 与える影響についての研究

1.研究の対象

2011年9月～2023年12月までに当院で前立腺癌と診断され、ロボット支援前立腺全摘除術を受けられた方

2.研究の目的・方法

遠隔転移のない前立腺がんに対する前立腺全摘除術は標準的な治療方法ですが、従来から、似た領域で治療を行う鼠径ヘルニアとの関係がよく知られています。

鼠径ヘルニアの修復には合成繊維で作られた網状の人工物（メッシュ）を使用した修復術が治療方法の主流となっており、多くの方々が発症、治療を受けています。開腹手術では一部の方が、メッシュの影響で手術が受けられないという報告もあります。ロボット支援前立腺全摘除術では、概ね施行可能という報告がされていますが、あまり多くの報告は多くありません。さらに、骨盤リンパ節郭清などで施行困難であったという報告もされています。

そこで、鼠径ヘルニアメッシュ治療がロボット支援前立腺全摘除術に対して、手術時間、出血量、リンパ節郭清術などに影響を与えるか、またどのように対処すれば良いかを検討します。

なお、この調査では通常の保険診療以外の医療行為はなく、診療録（カルテ）に記載される内容についての調査のみとなります。

調査期間は当法人 研究機関の長による実施許可後～2025年3月31日までの予定です。該当データの利用開始は、2024年3月18日を予定しております。

3.研究に用いる試料・情報の種類

主なデータ項目は以下となります。

《情報》年齢、ID、身長、体重、既往歴、前立腺癌の状態、前立腺の大きさ、鼠径ヘルニアメッシュ治療の有無、メッシュの種類、手術方法の違い、腹腔内でのメッシュ癒着の程度 等